愛知教育大学教育実践総合センター紀要
第11号，pp.169～172（February，2008）

図画工作・美術教育における開発教材の紹介

富　山　祥　瑞　（愛知教育大学美術教育講座）

（2007年10月31日受理）

Teaching aid development of art education

Shouzui TOMIYAMA　（Department of design education, Aichi University of Education）

Summary：図画工作の教材は身近に在り，その教材開発や教育プログラム開発の面白さを学んでもらうという授業内容の一コマを紹介します。

Keywords：教材開発，主題（テーマ）探究，制作時間の短縮

１．「図工嫌い」も小学校教員になる！

本稿は，本学の教員養成課程の開講科目の一つである「図画工作科教育」の授業を通して展開・改良されてきた一開発教材の紹介と，その展開方法を記述したものです。

この「図画工作科教育」は，実技の体験が中心の「図画工作科研究」に対し，授業の展開方法の習得を目的とする講義科目です。将来の小学校教員に対し，先ず「図工嫌い」を払拭させることが，この授業を成立させる基盤と考えております。そして，本人が「図工嫌い」であっても，少なくとも「図画工作」の教材開発や教育を苦手としない小学校教員へのきっかけとなってくれることを希求した授業でもあります。

小学校の教員免許取得に必須の教職科目として位置付けられており，本学では「図画工作科教育Ａ」と「図画工作科教育Ｂ」から成ります。「図画工作科教育Ｂ」は図画工作・美術を専攻とする学生向け，「図画工作科教育Ａ」は国語や社会専攻など図画工作を専攻としない学生向けの授業です。

筆者が担当してきたのは「図画工作科教育Ａ」で，これまでに社会専攻，算数・数学専攻，理科専攻，音楽専攻，家庭専攻および幼児教育専攻の学生を対象に開講してきました。

図画工作・美術を専攻としない学生が対象ですので，中には「小学校から『図画工作』が大の苦手」という受講学生もかなりの人数を占める授業でもあります。

２．「図画工作科教育Ａ」―― シラバスより

この「図画工作科教育Ａ」の学生向けに開示している筆者のシラバス（授業要旨）の抜粋を示します［表－１］。当授業そのものは，冒頭に記したように，授業の展開方法の習得を目的とする講義科目ですが，本稿の内容は，この文中にある「簡単な実習を含めた講義」の一つとして行ってきた「実習」です。

《「図画工作科教育A」シラバス》

【授業概要】
小学校教員免許を取得しようとする学生を対象とした講義科目です。小学校教諭は担当教科の専門はありません。図工・美術を専攻としない学生を対象にしていますので，「小学校の頃から図工の時間が苦痛だった」学生でも受講することになります。
なぜ嫌いになったのでしょうか？　苦痛の正体は何なのか？　その根本的な問題を一緒に探っていく内容としています。もちろん「図工大好き」だった学生も受講しますが，将来の小学校教諭として，落ちこぼれなく「図工」の授業展開ができる教育の在り方について，簡単な実習を含めて講義をしていきます。

【達成目標】
この講義を通して「図工」の楽しさを教えることが得意な人材の養成を目指します。

［表－１］「図画工作科教育Ａ」シラバス（抜粋）

３．教材開発にあたって

この授業を担当するようになって，この４年半で筆者自身も（小学校教員を目指す大学生が受講対象ながら）小学校の教師になった気持ちで教材開発とその授業の展開方法を模索してきました。

以下に紹介する開発教材は，実際に受講学生が教育実習の教材として取り上げたり，小学校の教育現場でも当時の受講学生を通して授業展開もされてきている内容です。筆者も，教育現場に出向いた際には「小学校の中学年から中学生までの授業に使える教材」として伝授しています。

今回は，とくに筆者の指導を経ないでも，教育現場

で展開できるようにレポート化したものです。指導指針も記しますので，どうぞ教育現場でお役立てください。また，この事例に限らず幾つかの開発教材と，その授業展開の方法も当授業を通してプロデュースされました。ご希望があれば，筆者までお問合せいただければ光栄です。

４．教材紹介と指導要領

4-1）主題（テーマ）と技法の違い

この授業では将来の教師となる受講学生に繰り返し話していることがあります。それは「（教師になった際は）主題（テーマ）と技法を混同して指導しないこと」。技法が難しくなるにつれて指導者は，その技法の解説と実技指導に傾注しがちです。

今回のケースでは「自分マークづくり」が主題（テーマ）であり，「篆刻」が技法に当たります。図画工作・美術教育の在り方として，技法の習得ではなく，テーマを探究する構想時間をより多く取りたい，という筆者の意図で開発した教材です。

技法的には流行の「消しゴムはんこ」に近いのですが，消しゴムより高度の捺印機能を持ち，且つ安全で，スピーディな作業を容易にした開発教材です。

当授業の展開方法および制作は，大学生を対象としていますが，筆者としては受講学生の先にある教育現場での児童・生徒への指導を見据えたものです。

4-2）技法 ―― 発泡スチロールを使います

テーマとしては「自分マークづくり」を，簡単でスピーディな篆刻教材を使って指導することを想定した教材です。

教材といっても工作キットと違い，失敗しても材料が揃えやすいです。また，技法としても簡単ですから，制作時間の遅れによる挫折感も少ないと思われます。

①準備するもの

準備するものは，［写真－１］に示した道具および材料です。注目して頂きたいのは，入手が容易なインスタント食品の容器（註-1）を使っている点です。

②発泡スチロールの使用部分

缶詰を開ける要領で，カッターナイフを用いて容器の底を切り抜きます［写真－２］。この時，カッターの刃が毀れていると切り口がギザギザになり上手くいきません。小学校の場合は指導者が予め準備しておくとよいでしょう。

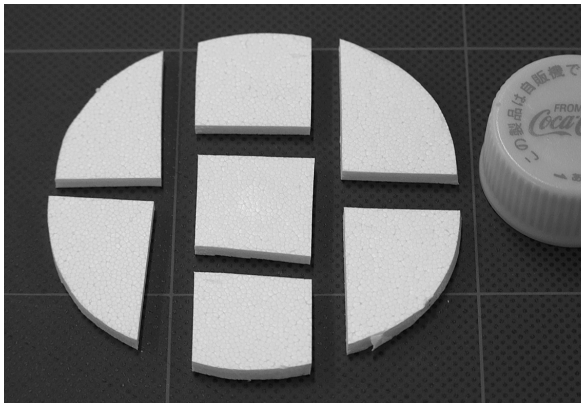
［写真－１］　準備する材料と道具（カップヌードル容器，ペットボトルキャップ，カッターナイフ，ボールペン（太・細各種），朱肉，両面テープ，カッターマット）

教材としては，抜き取った容器の底を用います。容器の外側面には製造番号等が凸状で入っていますので，カッターの腹で削いでおくてください。印面として用いるのは内側部分です。そのため食品を食べる際には，割り箸等で内側にキズを付けないようにしてください。食後は中性洗剤でキズが付かないように注意して洗ってください。

［写真－２］　容器の底を缶詰を開ける要領で切り抜く

③版の準備

おおよそ［写真－３］のように底部を切断します。合計で７つほどの発泡スチロールの切片ができます。これらは，ペットボトルのキャップ程度になります。②に記述したように，印面は容器の内側です。



［写真－３］　印面の切り出し

④版を彫る

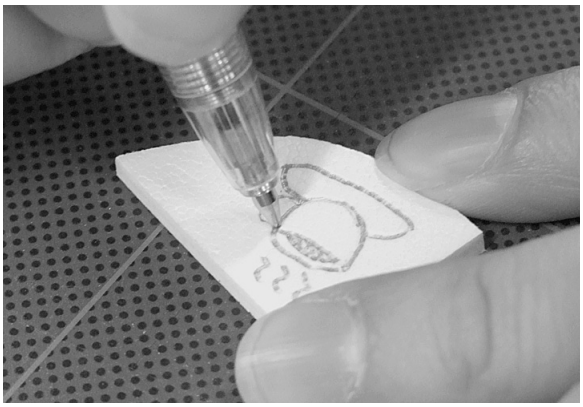
この切片に，ボールペンを使って筆耕します。彫るという作業は不要です。ボールペンは彫刻刀の代替ですが，インスタント食品の容器に使われている発泡スチロールは粒子がきわめて細かく，かなり細かい筆耕でも印影は十分です。

ボールペンの細字・太字によって微妙な線も容易に筆耕することができます。描くだけで見事に凹凸ができ，しかも彫刻刀を用いる必要はありません［写真－４］。

最初は要領が掴めなくても，切片は残り６つありますので，初めは体験版として彫るとよいでしょう。

筆耕作業を終えたら，丸や四角といった面取りのためカッターを用いて版の回りを整えます。これで印面部の完成です。

ここでは技法の紹介が中心になっていますが，筆耕に至る前には十分な構想の時間を取ってあげてください（当教材の主眼は，その点にあります）。



［写真－４］　ボールペンを使って筆耕

構想に時間をかけても，④の時間事体は，慣れてくると（大学生の場合で）５～10分で完了します。

完成した版を両面テープでペットボトルのキャップに接着すると全て完成です。スタンプ中に外れないようにしっかり接着しておいてください。

⑤いよいよ捺印

各種のスタンプ台で実験しましたが，もっとも美しい印影を得られるのは朱肉，中でも昔ながらの綿花が使われた印泥（註－2）でした［写真－５］。ここでは，朱肉から印面に満遍なくインクが着くように留意してください。これは指導者側で行った方が早いようです。

次頁に本学の当該授業で制作された受講学生の「自分マーク」の一部を披露します［表－２］。説明から構想段階を経て完成までに要した時間の目安ですが，（大学生で）約60分程度でした。

［写真－５］　印泥を用いて捺印

［表－２］　受講学生の作品「自分マーク」

５．おわりに

本稿は一見すると［技法］の紹介に映ると思われます。しかし，その主眼は［構想の時間］を多く確保するためのスピーディな教材を揃えることにあります。

今回のテーマも「ハンコづくり」ではなく，あくまでも「自分マークづくり」の一環として，作業が容易な発泡スチロールを用いたに過ぎません。児童・生徒に「皆さん，今回はハンコづくりをします」と言ったところで，大切な「何を表現するか？」が欠落します。

構想に多くの時間を取るための「篆刻教材」としてご活用ください。

註

1）インスタント食品の発泡スチロールは，カップヌードル（日清食品）の容器です。他製品では紹介内容を再現できませんのでご注意ください。カップヌードルでも「オリーブオイル仕立て」等の新製品は，容器が紙製であるため本教材としては適しません。

2）印泥は，なかなか見つけられずにいたのですが，東急ハンズ（篆刻コーナー）で常備しているようです。